

珈琲で語り合う人・文化・地域の交流

～2022年度大手前大学交流文化研究所シンポジウム～

2023.3.4 (土)

13:00-17:30

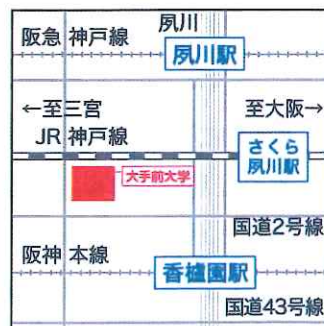


参加費無料 事前申込制 (定員100名)

会場：大手前大学さくら夙川キャンパスCELLフォーラム

アクセス：JRさくら夙川駅から徒歩約7分/阪急夙川駅から徒歩約7分/阪神香櫨園駅
から徒歩約7分

お問い合わせ先：kouryu@otemae.ac.jp (大手前大学交流文化研究所)



珈琲で語り合う人・文化・地域の交流

かつてコーヒーハウスやカフェは、知識人や芸術家たちが一杯の珈琲を飲みながら、政治や経済、芸術文化などを語りあうサロンのような役割を果たしたという。そこでは人々の交流によって、時には創造的な文学・芸術のインスピレーションが、また時には企業家たちのビジネスネットワークが生み出され、まさに珈琲とは、人や社会を繋ぎ、文化、ビジネスなどを紡ぐ貴重な役割を果たしてきたと言える。

大手前大学のさくら夙川キャンパスが建つ阪神間は、大正時代から昭和初期にかけて阪神間モダニズムと称されるモダンでハイセンスな生活文化が根付いてきた歴史をもつ。阪神間には大阪からは実業家が移住し、また神戸からは異国の文化がもたらされ、ハイカラなファッション、独特の様式美をもつ建築、そして時代を先取ったライフスタイルなど、阪神間特有の文化性を積み重ねてきた。そして珈琲もまた、ハイカラでモダンな食文化の象徴として、阪神間の生活文化を形作ってきたものと言える。

今や第三の珈琲ブームの立役者とも言われるスペシャルティコーヒーが定着し、またコロナ禍によって自宅での焙煎やドリップにこだわる人々が増えているとも言われる。阪神間でも自家焙煎にこだわった珈琲店が続々と開業している。

人々が魅せられる珈琲の魅力とは一体何だろうか？阪神間という特有の文化圏をもつこの夙川で、様々な分野から珈琲について語り合いたい。

パネリスト

- 呉谷充利 相愛大学名誉教授
細江清司 一般財団法人日伯協会理事
栄秀文 UCCコーヒー博物館館長
小林宣之 大手前大学建築&芸術学部教授
白石齊聖 大手前大学健康栄養学部教授
海老良平 大手前大学現代社会学部准教授
- 司会
森元伸枝 大手前大学国際日本学部准教授



スケジュール

13:00-13:05	開会の辞	15:10-16:40	パネリストからの報告
13:05-13:15	趣旨説明	16:40-16:50	休憩
13:15-14:45	パネリストからの報告	16:50-17:25	全体討論・質疑応答
14:45-15:10	コーヒーブレイク	17:25-17:30	閉会の辞

右記のQRコードもしくはインターネットサイト (<https://bit.ly/3wV8bUi>) からお申し込みください。お申し込みの締切は3月3日とし、先着100名までとさせていただきます。お申し込みの方にはお知らせメールをお送りします。

新型コロナウイルス対策（マスク着用、手指消毒、体温測定、フィジカルディスタンス）にご協力をお願いします。

